

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675400115
法人名	(医) 拓和会
事業所名	ろうけん大楠 グループホームたんぼぼ
訪問調査日	平成20年8月2日
評価確定日	平成20年10月7日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	4675400115		
法人名	(医) 拓和会		
事業所名	ろうけん大楠 グループホームたんぼぼ		
所在地	鹿児島県始良郡蒲生町下久徳1251番地 (電話)		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年8月2日	評価確定日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	階建ての 1階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,390 円	その他の経費(月額)	5,010 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000円	

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲病院・竹内歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に有名な大楠が生息している名所や、温泉があり静かな集落が点在する中に開設されているホームである。敷地内に老健施設やショートステイ・デイケア事業所が併設されており、常に利用者に関わりを持つ事のできる環境の中で安心して暮らしていけるケアを目指している。職員は身体面の重度化と認知症が進行していく利用者に対するケアは、どうあるべきかを常に話し合い努力を重ねている。また、自傷行為のある利用者家族からの、身体拘束の申し出に対して拘束せず原因を追究し、本人の希望に沿ったケアを心がけている事などの取り組みは職員のケアに対する要求水準の高さと研鑽意欲の高さがうかがえる。日常的に近隣の生活音や暮らしぶりに触れる機会は少ないが学生の実習やボランティア・行事参加など積極的な交流は家族などや地域の人々との信頼関係が深まり充実が期待されるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	消防署の指導のもと、隣接の老人施設と合同の避難・消火訓練を行っている。また、昼間時・夜間時の避難訓練を想定でなく実践し改善課題に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がユニット毎に評価に取り組み、「ケアマネジメント」や「日々の支援」の関わり方に(利用者の身体状況に合わせた)違いのある事に気付いたり、隔月ごとに行っていた誕生会を毎月個別に実施する事や、職員の勉強会を多く計画するなど改善やサービスの質の確保に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的開催されている。災害訓練などに関する具体的な意見やホーム内の臭いについてなどの意見が出されている。臭いについて職員と原因追求を行い、換気機能の不備であった事を改善報告し、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は来訪時や電話などで意志の疎通を図り、意見や要望を出しやすい雰囲気作り心がけている。利用者のうっ血防止に手すりカバーをしたり、転倒防止のために上履きの検討など、出された意見や要望などは職員と話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、地区行事(ゲートボール大会・運動会・サロン)に参加と見学をしている。また、中学生の体験学習や高校生の実習予定表もあり実習とボランティアを受け入れている。福祉ボランティアや民生委員・近隣住民の来訪などあり、交流は行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割、地域で暮らし続ける為の理念をホームの開設時に職員の意見を集約して作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付く場所(玄関・ホール・事務所など)に掲示し認識できるようにしている。申し送り時やミーティング時に確認しあい共有に努め、日々のケアに実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地区行事(ゲートボール大会・運動会・サロン)に参加と見学をしている。また中学生の体験学習や高校生の実習予定表もあり、実習とボランティアを受け入れている。福祉ボランティアや民生委員・近隣住民の来訪などあり、交流は行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がユニット毎に自己評価に取り組み「ケアマネジメント」や「日々の支援」の関わり方(利用者の身体状況に合わせた)に違いのある事に気付いたり、隔月毎に行っていた誕生会を毎月個別に実施する・職員の勉強会を多く計画するなど改善や質の確保に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。災害訓練などに関する具体的な意見やホーム内の臭いについての意見が出されている。臭いについて職員と原因追求を行い、換気機能の不備であった事を改善報告し、サービスの質の向上に活かしている。		

鹿児島県 ろうけん大楠 グループホームたんぼぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に後見人制度や利用者の入退去・ホームの取り組みなど相談しながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「たんぼぼ便り」を年2回発行し2ヵ月に一回個別報告をしている。また来訪時や電話などで(日常の暮らしぶりや身体状況・新職員の紹介など)報告し、金銭管理は出納帳により、管理し控えを送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は来訪時や通信、電話などで意志の疎通を図り、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。利用者のうっ血防止に手すりにカバーをしたり、転倒防止のため上ばきの検討など出された意見や要望などは職員と話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員のなじみの関係の重要性を認識している。やむをえない異動の際には十分な説明をして利用者へのダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書ができており、段階に応じた研修に交替で参加し、研修報告がされて職員は共有できている。また勉強会や資格取得に意欲的であり、支援もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。地区や町内グループホームと相互交流に努め情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には病院や自宅に面会に行き、利用者の生活歴や思いなど十分に聞いている。また見学をしてもらい信頼関係を築き不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中でその人の特技(ワラで造ったホーキで掃除する)を発見したり、レベル低下の方がアップするなど生命力のドラマを真近に見て、職員は感動と元気をもらいながら日々をともにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に問いかけたり、行動や表情を観察して思いや意向を把握している。意向に答えられるように家族などに協力をもらいながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を元に主治医・職員の意見を活かした利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月・6ヶ月)な見直しをしている。利用者の状態変化や入退院の際はその都度モニタリングを行い評価結果を見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間健康管理と医療活用の強化を図っている。また本人や家族などの状況や要望に応じて病院受診や墓参り、特別な外出など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族など、医師、看護師を交えて話し合い方向性を統一した指針を定めて職員も共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時個人情報の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で「食事・起床・就寝・入浴」時間などその人の生活リズムを大切にしながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

鹿児島県 ろうけん大楠 グループホームたんぼぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶碗洗いや下膳(シルバーカーや車椅子利用の利用者も)などできる事を一緒に行いながら、職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉を利用した入浴が毎日できるように準備されている。一人ひとりの希望や体調に合わせて対応に配慮しながら入浴の支援をしている。大浴場での入浴や足浴もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	卓上卓球・風船バレー・手紙を書く・電話(携帯)など一人ひとりの得意な事、好きなことに力を発揮できるように支援している。また地域の季節行事に参加したり美容院へ出かけるなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や外気浴・買い物その他・花見や地域行事見学に出かけている。また福祉タクシーを利用して外出する事を検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、見守り担当者を決めたり、ホールに机を設け業務をしながら一人ひとりの行動を見守り、鍵をかけずに自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、隣接の老人施設と合同の避難・消火訓練を行っている。また昼間時・夜間時の訓練を想定でなく実践している。災害時の備蓄もしている。		

鹿児島県 ろうけん大楠 グループホームたんぼぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせてキザミ食やおかゆなど取り入れている。栄養バランスは栄養士の献立を利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔で温度管理や換気も良く、室内の安全な環境作りに配慮が行き届き、慣れ親しんだ季節行事の装飾や家具類・花に囲まれて利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・冷蔵庫・洋服かけ・時計・家族写真・タオルケット毛布・枕など、使い慣れた物品が持ち込まれ、安心して生活を楽しんでいる。		